

世界に誇れる極上の会津米づくり「目指そう 今年も特A 会津コシ1等米100%」

両沼地方稲作情報 第3号

平成29年6月1日

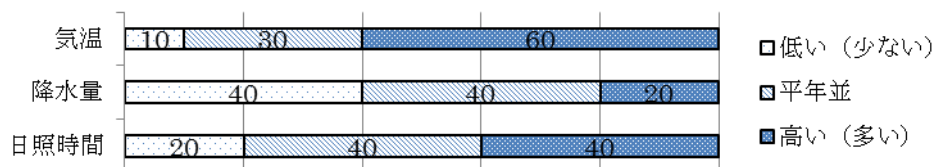
発行： 福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所 (電話0242-83-2112)
 " 金山普及所 (電話0241-54-2801)
 JA会津よつば みどり地区本部、各営農経済センター、
 JA会津米改良協会

1 気象情報(平成29年5月25日 仙台管区气象台発表「東北地方1か月予報」より抜粋) <5月27日～6月26日までの天候見通し>

期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



2 今後の作業について

時期	6月			7月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
生育ステージ	分けつ期			幼穂形成期		
水位	浅水			中干し → 間断灌水		
作業	除草剤散布			中干し 穂肥え いもち病防除		

【作業内容】

- 6月下旬までは浅水管理で水温を上昇させ分けつを促進し、必要茎数を確保しましょう。ただし、ガスがわいて水稻の生育が停滞している場合は、軽く落水してガス抜きを行いましょう。
- 株当たり20本程度の分けつ(有効茎)を確保したら中干しを行い、無効茎を抑えましょう。中干しの際には、溝切り(4~5m間隔)を行うと、その後の水管理を容易にできます。また、水不足ほ場では、無理に中干しを行わず、用水の確保状況に応じた水管理を行ってください。
- 中干しは、幼穂形成期前までに終了し、その後は間断かん水により根を健全に保ちましょう。低温の恐れがある場合は深水にしましょう。



3 病害虫対策

(1) 斑点米カメムシ類

① 雑草の除草について

6月～7月は、畦畔や休耕田等の雑草地で生育します。イネ科雑草やホタルイを好んで繁殖しますので、これらの雑草を中心に除草してください。

また、水田内にホタルイが多発すると斑点米カメムシ類を誘引し、斑点米の発生が増えることが心配されます。イネ科雑草やホタルイ等の雑草が発生している場合は中期除草剤で除草してください。



イネ科雑草



ホタルイ

(2) イネいもち病(葉いもち)

- ① 会津では葉いもちは6月下旬が初発です。感染源となる補植用置苗は、早急に処分しましょう。
- ② 葉いもちの早期発見に努め、病害虫発生予察情報[★]を利用し適期に防除しましょう。福島県病害虫防除所のホームページに「BLASTAM」がありますので確認してください。

★病害虫防除所のURL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

イネ葉いもち感染好適条件出現状況(BLASTAM)

- ③ ほ場内に葉いもちの発生を確認した場合、速やかに散布剤(液剤・粉剤)で防除してください。
散布剤の例: ブラシン粉剤DL、ビーム粉剤DLなど
- ④ 田植え時に箱処理剤を処理していない場合、または直播栽培の場合は葉いもち対策として水面施用剤で防除してください。

薬剤名	使用時期[葉いもち]	使用量(/10a)	使用方法
フジワン粒剤	初発7～10日前	3～5 kg	湛水散布
オリゼメートパック	収穫14日前まで	20～26個	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる
オリゼメート粒剤	初発10日前～初発時	3～4 kg	散布
コラトップ粒剤5	初発10日前～初発時	3～4 kg	散布

(3) その他病害虫の発生状況(県病害虫防除所の発生予察情報より、5月26日現在)

- ① イネミズゾウムシ 発生時期: やや早い 発生量: やや少ない
100株あたり40頭以上確認される場合や、水田内の全葉に被害がある場合茎葉剤を散布。
- ② イネドロオイムシ 発生時期: 早い 発生量: やや少ない
発生が目立つ場合は、薬剤防除を行う。
- ③ イネヒメハモグリバエ 発生時期: — 発生量: やや少ない
深水管理や、直播栽培では被害が発生しやすいので注意する。

農薬を使用する場合、使用基準(適用作物、使用量、使用回数、使用時期等)を遵守しましょう

**農作業事故が増えています。農作業時の事故に注意してください。
また、気温が高くなりますので水分を補給して、熱中症にご注意ください**

御不明な点は最寄りのJA支店または普及所までお問い合わせください。